発行所 かしわら見張り番

代表
はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502

創刊記念期間 ¥0

The Kashiwara Mihariban
かしわら見張り番

2009 6 no.2
6月20日（土）発行

工学博士 **増川いづみさんに聞く**

エコは人の生き方から

水への敬い忘れた現代人

地球上の生命に欠かすことのできない水が、人間によって汚染され続けている。環境にやさしい生活をするにはどうすればいいか。長年、水の研究に携わってきた工学博士の増川いづみさんに聞いた。

聞き手・はまうら佳子

浜浦　柏原市内を流れる原川が生活廃水で汚れています。原川も支流の一つである大和川は、一級河川では水質ワースト1という不名誉を頂戴しているんです。まずは原川をきれいにしてあげたいと長年思ってきました。

増川　河川の汚れの問題は、第一に家庭排水からの合成洗剤、第二は護岸工事によって水が本来もっている浄化力が低下するのが主な原因です。

浜浦　川の水面には、合成洗剤の泡がいつも浮いていますね。

増川　生活廃水による川の汚染を止めるには、洗剤メーカーの規制が必要でしょう。たとえ「植物性」とうたっていても、実体はとても環境に悪い界面活性剤が未だに多くの洗剤に含まれています。「エコ、エコ」と言いながら、日本の界面活性剤の輸入量は膨大で、しかも年々増えています。

家庭における生活廃水や洗剤濃度を減らすための工夫はたくさんあるはずですが、やはり生活者が賢くならないといけません。

浜浦　作家のS・W・ニコルさんも、川はコンクリートではなく土嚢で固めよと言っていますね。

増川　コンクリートで固めてしまうことで生態系が崩れ、浄化能力が極端に落ちています。一番いいのは、葦など水の浄化力がある水草を植えることです。水草は魚に捕食される動物プランクトンを保護し、増えた動物プランクトンは、植物プランクトンを捕食して水質を浄化して透明度を上げるのです。やはり水の中の生態バランスが重要になるわけです。

浜浦　行政は水洗化のための事業を数十億円かけてやっていますが、柏原市のような地方都市ではあまり合理的なやり方とはいえないと思うんです。それより、生活排水の浄化に取り組んだ方が効果的で、安上がりではないでしょうか。

増川　私もそう思います。オランダでは、浄化のシステムが地域ごとにできています。スウェーデンでは、飲めるほどきれいな水にして川に流しています。

環境問題、特に水や電磁波の研究で注目を浴びる増川氏と浜浦代表が対談。深刻な問題が浮かび上がったが、改善へ向けての希望も見えてきた＝6月3日、京都にて

柏原をエコ・タウンに

浜浦　柏原市をエコ・タウンにしたい、というのが私の夢です。まずは、河内国分駅前から大阪教育大までの原川を整備してプロムナードをつくり、子どもたちが川で魚や生き物を追いかけ、親や大人はその姿を遠目から楽しそうに眺めている。道沿いにはエコ関連のショップが並び、エコに関心のある人で賑わう…。そんなエコ・タウンになれば、全国から視察にもやって来ると思いますよ。

増川　それは素晴らしいですね。海より、まずは川なんです。川が汚れると、海も汚れます。また、肥沃な微量ミネラルが海に流れません。海の微生物が育つのは、川が運ぶ土の成分です。だから、海の貝とかプランクトンを育てているのは川なんです。かつて、上空からアマゾン川を眺めたとき、川は地球の血管だと実感しました。

浜浦　つまり、人間が汚した川は海の汚れになり、結局全部人間に還ってくる、ということですね。

増川　おっしゃる通り。一番大事なのは、人間の考え方、生き方を変えることです。自分の家の中はきれいにしても、外ではゴミをポイポイ捨てる人がいますね。そういう心のあり方が一番の問題です。

浜浦　環境というのは、家の外だけを指すものではない。人の心のあり方や、生き方が問題であると私も考えていました。

増川　現代人は、水に対する敬いを忘れてしまっていると、つくづく感じます。命を与えてくれる元の水が汚れてしまったら、恐ろしい連鎖が起こります。化学薬品を駆使して様々な人工的処理をしたとしても、もうすでに湧きたての命ある水とはほど遠い死んだ水になっているのです。

浜浦　私たちはその〝死んだ水〟を飲んでいるわけですか。

増川　いま、人間の免疫がかなり下がっています。本来、水には活性エネルギーがありますので、正しい食生活をしていれば、私たちの体はそんなに病原菌に侵されない状態になっているのです。ところが、活性エネルギーが下がっているばかりか、汚染物まで入っているのですから、なかなか体を浄化しきれません。

生まれたばかりの水と同じような、活力にあふれた蘇生力や活性力を与えることが、これからの水の課題でしょう。

浜浦　水を大切にすることは、命を大切にすることと同義である、ということですね。増川先生のお話を聞いて、柏原をエコ・タウンにするという夢がぐんと現実に近づきました。

増川　私こそ、浜浦先生の熱い想いに希望を感じました。世の中を変えるのに、女性の力は重要です。直感力やトータルに物事をみる力、闘争ではなくハーモナイズ（調和）させる力は女性の方が優れていますから。

浜浦　今日はとても勉強になりました。「柏原を変えよう」という人たちと共に、精一杯頑張っていきたいと思いますので、これからも応援してください。

増川先生は、米国ミシガン州立大学、マサチューセッツ工科大学に学び、水の分子生物学と磁気共鳴学を中心に幅広く研究を続けている才媛。記事になったのは、ごく一部です（詳しくは、森清範・清水寺貫主様らとの鼎談をまとめた風雲舎刊『水は知的生命体である』をお読みください）が、すっかり意気投合して、あっという間に四時間。お話の中でとても気になったのが、電磁波が人体に及ぼす悪影響。増川先生はその研究の第一人者。納得した私は、さっそく先生の開発されたエネルギー・バランサーという装置を購入して、試用中。これまでより快眠できる感じで、かなり調子いいです！（よしこ）

対談を終えて